

四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol.61

干ばつと雨乞い

香川県 綾川町長

ふじい けん
藤井 賢



香川県のほぼ中央に位置する綾川町は、地理的、歴史的また人的にも深いつながりを持つ、綾上町と綾南町が平成18年3月21日に、合併して誕生いたしました。人口は約2万6千人、面積109.67平方キロメートルの緑豊かな町です。町名の由来である「綾川」は香川県を代表する河川であり、これまでの2町発展には欠かすことのできないものでした。こうしたことから、今までの歴史や伝統、文化などを互いに尊重しながら、さらなる発展をとげるための象徴となるものとして「綾川町」と名付けられました。

さて讃岐路は、水のこぼれ話には不自由しないところです。

地理的、気象的な条件がそのことを示すもので、阿讃の山々から、海までの距離がとても近いこと、雨水の約25%近くが溜池に、残りの75%は海洋に流れており、香川の溜池は実に1万4千余が、点在しております。このことから「干ばつと雨乞い」は、讃岐県人の頭中には、常にひらめいております。讃岐にはうどん屋の数が多いことでも知られております。またこのように驚くほどの溜池があることは、度々おとずれる水不足に備えるために、昔からつくられていた財産ともいえます。

その歴史が、菅原道真の雨乞いの祈願であります。それは仁和4年(888年)の大干ばつに城山(坂出市内)に登られて7日7夜ご祈願した最終の日に、大雨に恵まれて民、百姓は大いに喜び踊りました。

この踊りに法然上人が振り付けしたのが滝宮念仏踊りで、国指定重要無形民俗文化財として毎年8月25日に滝宮神社、滝宮天満宮で奉納が行われております。

また、農業用水路の築造に尽力された人物として久保太郎右衛門さんがあげられます。綾川上流の山田地方から、滝宮地方の溜池に農業用水を誘引し、この地方の水田の稲作をはじめ、農作物は豊かな水に守られて育ちました。久保太郎右衛門さんは、その当時、財産を持つ庄屋でありました。菅原用水(誘引の水路)の工事は庄屋さんが自費で工事施工したことから、記念碑も建てられ、八坂神社(綾川町萱原)に神として奉られ今日も多くの方々に尊敬されております。

綾川町の町名もさることながら、文化的、歴史的にも水のこぼれ話に事を欠かないことを将来に伝える任務があることを充分自覚し、かつ香川の水の歴史の一つにしたいと思っております。



滝宮念仏踊り



久保太郎右衛門記念碑(右端)